

「CBRNE テロ災害・マスギャザリング  
に関する国内外の知見を基に、予防・検  
知・対応能力の現状と課題を明らかにす  
る研究」

研究分担者 若井 聡智

(国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 医長)

研究協力者 高橋 礼子

(愛知医科大学 災害医療研究センター 助教)

令和元年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
「CBRNEテロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に関わる研究」

分担研究報告書

「CBRNE テロ災害・マスギャザリングに関する国内外の知見を基に、予防・検知・対応能力  
の現状と課題を明らかにする研究」

研究分担者 若井聡智

国立病院機構大阪医療センター・救命救急センター・医長

研究協力者 高橋礼子

愛知医科大学・災害医療研究センター・助教

研究要旨

本研究では、内閣官房が把握する専門家リストを基に、CBRNE 関係の専門家、救急災害医療、救助の実務者、行政関係者からなるネットワークを構築した。今年度は1月21日に第1回専門家会合を実施し、30名の専門家、行政関係者が出席した。本会合では、G20大阪サミットにおける医療体制、東京オリンピック・パラリンピックに向けた化学テロ対応の改変、世界健康安全保障行動グループ化学イベントWG会議報告がなされ、参加者間でディスカッションが行われた。また、今年度発生した3つの災害事例（佐賀豪雨、台風15号、台風19号）について、本部等報告書を収集し、事例検討を行った。

A. 研究目的

本研究は、国内における最新の知見を収集するとともに、本研究の成果より得られた海外などの最新の知見をこのネットワークを通じて共有し、本邦における予防・検知・対応能力の現状を把握すると共に、国内外における CBRNE テロ・災害・マスギャザリング等の事例（G20、東京オリパラ等の対応を含む）を収集、分析し、その対応における課題と改善点を明らかにした上で、得られた知見を発信することを目的とする。

B. 研究方法

内閣官房が把握する国内の CBRNE 関係の専門家リストを基に、専門家ネットワーク構築を行い、CBRNE 関係の専門家の会合を、年2～3回程度に実施する。

また、国内外における CBRNE テロ・災害・マスギャザリング等の事例が発生した場合

には、現地調査や派遣された医療チーム等の報告書を収集することにより、事例検討を行う。

（倫理面への配慮）

本研究においては特定の個人、実験動物などを対象とした研究は行わないため倫理的問題を生じることは少ないと考えられる。

C. 研究結果

内閣官房が把握する専門家リストを基に、CBRNE 関係の専門家、救急災害医療、救助の実務者、行政関係者からなるネットワークを構築した。若井分担研究者がこのネットワークの実効性を確保し、情報交換、共有を目的とした会合を以下のように開催した。

【第1回会合】

日時:令和2年1月21日

参加者:30名

プログラム:

## ① G20 大阪サミットにおける医療体制の構築— 都市開催モデルの構築—

### 《概要》

サミット主催国として日本政府が求める要件を満たすべく、都市開催型サミットとしての『大阪モデル』を構築し、開催地の特性を生かした医療提供体制を提案した。これに基づき、サミット関係者への迅速・的確な医療提供とともに、日常の救急医療への影響が最小限となるような体制を構築した。具体的には、早期より医療担当行政部門・各組織と連携し、様々な調整機能を備えた医療対策本部を設置すると共に、現地の医療機関における対応（首脳受入れ病院、協力病院等）は大阪の医療チームが、サミット会場・ホテルにおける医療対応は大阪以外の医療チームが担当する体制を構築した。結果として、サミット期間中の医療動向調査より、日常救急体制に搬送体制に大きな影響は生じなかったことが示された

## ② 東京オリンピック・パラリンピックに向けた化学テロ対応の改変

### 《概要》

化学テロ対応における現状の課題としては、一般的現場対応では救助体制構築に時間を要しすぎる（＝人命救助困難）事に加え、種々の状況（要配慮者）に対する配慮が欠落しているという点が挙げられる。これに対し、被災者の救命と現場対応者の安全確保の両立する観点から、効率的で現実的な現場対応の在り方を再考し、『化学テロ等発生時の多数傷病者対応（病院前）活動に関する提言』を作成した。また本提言を踏まえ、厚生労働省化学災害・テロ対策に関する検討会では、現場対応者による解毒剤自動注射器の使用についての検討がなされ、一定の条件下での自動注射器使用について違法性が阻却されることなどが報告書にまとめられた。更に、NBC 研修等での CBRN (E) 災害の病院対応についても、病院前と病院対応の連動性を講じる形に改訂を

行った。これらを踏まえ、東京オリパラに向けては、CBRNE テロ・災害を日常的な救急・救助業務に組み入れる（通常の迅速対応を基盤にして上乗せを検討）ことで、現実性のある対応へ再構築を進めていく必要がある。

## ③ 世界健康安全保障行動グループ(GHSAG) 化学イベント WG (CEWG )会議報告

### 《概要》

令和元年 12 月 3・4 日に9カ国、WHO IHR から参加して行われた。主な議題は、前年の化学イベント WG (CEWG) 会議で協議された「オピオイドによる大量殺傷事案」に関する各国の現状、予防策、拮抗薬の備蓄の報告をまとめることであった。さらに次回の議題である緊急事態体制確立後に続く段階として定義される「Recovery」について討議するための準備を開始した。

※第 2 回会合は 3 月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症対応に従事している関係者が非常に多く、また感染リスクの高い状態での会合実施は 3 月時点では不適切と考えられたため、第 2 回会合は中止とした。

更に、今年度発生した 3 つの災害事例について、本部等報告書を収集し、事例検討を行った。詳細については、考察含め別紙にて報告する。

- 佐賀豪雨（佐賀県）
- 台風 15 号（千葉県）
- 台風 19 号（長野県、埼玉県、茨城県、福島県、宮城県）

### D. 考察

今年度の専門家会合では、G20 大阪サミットにおける医療体制、東京オリンピック・パラリンピックに向けた化学テロ対応の改変、世界健康安全保障行動グループ化学イベント WG 会議について講演・報告が行われ

た。近年の各種大量殺傷テロや要人等を狙った事案が頻発する不安定な国際情勢の中、東京オリパラを控えた本邦における CBRNE テロの脅威の評価とその対処法等について、医療従事者・研究者のみならず、医療・消防・セキュリティ等の行政担当者や軍事関連の専門家等が、それぞれの立場から討議・意見交換を行えたことは非常に有意義であった。

一方で、本会合はセキュリティや専門性の高さなどの観点から、専門家によるクローズな会合となっている側面があるが、これまでに明らかにされた課題・改善点に継続的に対応していくためには、本邦の健康危機管理対応を担う次世代の人材の育成が必要である。このため、次年度以降も引き続き健康危機管理・テロリズム対策に関連する情報、特に今後の国際的大イベントの振り返り・課題整理と各方面からの知見を本会合にて共有すると共に、高橋分担と連携しながら、CBRNE テロ災害・マスギャザリングに関する医療及び公衆衛生における対策に係る人材育成の場としても活用していくことが重要である。

#### E. 結論

本研究では、内閣官房が把握する専門家リストを基に、CBRNE 関係の専門家、救急災害医療、救助の実務者、行政関係者からなるネットワークを構築した。今年度の会合では、G20 大阪サミットにおける医療体制、東京オリンピック・パラリンピックに向けた化学テロ対応の改変、世界健康安全保障行動グループ化学イベント WG 会議報告がなされ、参加者間でディスカッションが行われた。また、今年度発生した 3 つの災害事例（佐賀豪雨、台風 15 号、台風 19 号）について、本部等報告書を収集し、事例検討

を行った。

#### F. 健康危険情報 なし

#### G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表
  - 1) 若井聡智. 特別企画 5「2019 年 G20 大阪サミット救急・災害医療体制報告会」2019G20 大阪サミット現地医療対策本部の運営について. 第 47 回日本救急医学会総会・学術集会. 令和元年 10 月 4 日
  - 2) 若井聡智. SY1-4 近年の災害医療対応事例と南海トラフ地震対策. 第 73 回国立病院機構総合医学会. 令和元年 11 月 8 日
  - 3) 若井聡智. 地域におけるマスギャザリング災害への備えと対応. 京都中部総合医療センター災害対策研修会. 令和元年 11 月 25 日
  - 4) 若井聡智. 一般演題 口演 3 総論:指揮・調整・連携 G20 大阪サミット・西日本豪雨 G20 大阪サミットでの現地医療対策本部における成果と課題. 第 25 会日本災害医学会総会・学術集会. 令和 2 年 2 月 20 日

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 なし